

検証・浦和電車区事件の真実 要約版1号 (No. 1～5)

民主化闘争情報 [号外] 2008年4月30日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

他労組との交遊が大事件に、吊し上げ始まる！

事件被害者のY氏は、1992年4月にJR東日本入社すると同時にJR東労組に加入した。駅、車掌区を経験し、2000年2月に転勤した浦和電車区は、組織の「規律」が厳しい職場だった。当時、JR東労組東京地方本部青年部は、国労組合員に加入を呼び掛けるハガキを送る運動を行っていたが、Y氏は先輩に失礼と思い、指示に従わなかった。

売り言葉に買い言葉で「脱退しますよ」と発言

2000年12月21日、Y氏は、しつこい追及に対し、2000年11月に東京車掌区時代のグリーンユニオン（JR連合）組合員も交えてキャンプに行ったことを喋ってしまった。また、26日にはA分会青年部長に「こんなもん書くなら、脱退届を書いてやる」とはずみで言った。これに反応したJR東労組は、28日、職場の講習室でY氏の事情聴取を行った。斉藤被告・上原分会長（被告）ら12～3名から厳しく詰問され、キャンプ参加者の名前を明かせと迫られる中、Y氏は、はずみで「迷惑のようだったら脱退しますよ」と言ってしまった。しかし帰宅後、「脱退したら差別される」と思い、分会長に発言撤回を申し出るなどしたが納得してもらえなかった。29日夜に分会長から電話があり、「どうしてもメンバーを明かさざるを得ないぞ。明日集会に出てこい」と指示された。悩んだY氏は、同日、メンバーに電話で相談した。前職場の東京車掌区の先輩でグリーンユニオン所属のG氏の発案により、「グリーンユニオンのH氏をJR東労組に戻すためキャンプに行った」との「作り話」で対処することにした。

集団的吊し上げの始まり

12月30日、講習室の「拡大闘争委員会」なる集会で、Y氏は30人ほどの組合員から激しく責められ、仲間の名前を明かした。4時間にわたり、繰り返し罵声を浴び、謝罪を要求され、仲間と縁を切ることを約束させられた。解放されたい一心で理不尽な約束を受け入れた。

JR東労組浦和電車区分会は「闘争委員会」を設置し、Y氏に対し厳しく対処する方針を決定していた。12月29日夕刻、分会執行委員会を開催、Y氏の行動を「組織破壊」と規定し、分会執行委員会を「闘争委員会」に切り替えることが決定された。

シリーズ第1号～第5号の経過

1992年4月	Y氏がJR東日本に入社しJR東労組に加入、川口駅に配属【No. 1参照】
1993年2月	Y氏が東京車掌区に転勤【No. 1参照】
2000年2月	Y氏が浦和電車区に転勤【No. 1参照】
11月	Y氏がグリーンユニオン（JR連合）組合員らとキャンプに行く【No. 1参照】
12月初旬	Y氏がJR東労組の国労へのハガキ活動を拒否【No. 1参照】
12月21日	Y氏が斉藤被告にキャンプの話をつかり漏らす【No. 1参照】
12月26日	Y氏が浦和電車区分会A青年部長に「脱退届を書いてやる」と発言【No. 2参照】
12月28日	職場講習室でハガキ活動をめぐり事情聴取、Y氏ははずみで「脱退しますよ」と発言【No. 3参照】
12月29日	Y氏が上原分会長（被告）に発言撤回を申し出たが拒否される【No. 3参照】 Y氏がキャンプ参加者に対処方法を相談、G氏の発案で「作り話」で事態を乗り切ること【No. 4参照】 JR東労組浦和電車区分会執行委員会でY氏の追及方針を決定【No. 5参照】
12月30日	職場講習室の分会「拡大闘争委員会」で4時間にわたりY氏を吊し上げ【No. 4参照】